

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 3 7	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b> Prevalence and determinants of prehypertension in a Japanese general population: the Jichi Medical School Cohort Study. 日本人一般集団におけるプレ高血圧の有病率と決定要因: 自治医科大学コホート研究	
<b>執筆者</b> Ishikawa Y, Ishikawa J, Ishikawa S, Kayaba K, Nakamura Y, Shimada K, Kajii E, Pickering TG, Kario K; Jichi Medical School Cohort Investigators Group.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> Hypertens Res 2008; 31: 1323-1330	
<b>キーワード</b> 前高血圧(prehypertension)、日本人、肥満、糖尿病、断面研究	
<b>要 旨</b> <p>             プレ高血圧(pre-HT)(収縮期血圧〔SBP〕120-139mmHg and/or 拡張期血圧〔DBP〕80-89mmHg)は、心血管疾患のリスク(CVD)を増加すると報告されている。我々は、日本人一般集団で、プレHTの有病率と決定要因を評価した。私たちはベースラインで血圧測定を行った年齢18-90歳の、男性4,706人、女性7,342人を登録した。対象者の血圧は、次のように分類した。正常血圧(NT: SPB/DBP&lt;120/80mmHg)、プレ高血圧(120/80-139/89mmHg)、および高血圧(HT: 140/90mmHg or 高血圧治療中)。プレ高血圧の有病率は、34.8%(男性)と、31.8%(女性)であった。Body mass index (BMI) 23kg/m<sup>2</sup>以上は、プレHTの最も強い決定要因であった(男性BMI: 23.0-24.9kg/m<sup>2</sup>、オッズ比〔OR〕=1.47、95%CI=1.21-1.79; BMI: 25.0-26.9kg/m<sup>2</sup>、OR=2.20、95%CI=1.68-2.87; BMI: 27.0-29.9kg/m<sup>2</sup>、OR=2.75、95%CI=1.80-4.19; BMI: ≥30.0kg/m<sup>2</sup>、OR=3.39、95%CI=2.33-9.46。女性-BMI: 23.0-24.9kg/m<sup>2</sup>、OR=1.67、95%CI=1.42-1.95; BMI: 25.0-26.9kg/m<sup>2</sup>、OR=1.79、95%CI=1.46-2.19; BMI: 27.0-29.9kg/m<sup>2</sup>、OR=3.65、95%CI=2.73-4.89; BMI: ≥30.0kg/m<sup>2</sup>、OR=4.23、95%CI=2.33-7.70)。プレ高血圧のその他の決定要因は、高脂肪血症(男性: OR=1.25; 女性: OR=1.43)と、加齢(10年以内; 男性: OR=1.12; 女性: OR=1.48)であった。女性のプレHTの決定要因は、耐糖能異常(OR=1.41、95%CI=1.03-1.94)、糖尿病(OR=2.01、95%CI=1.16-3.47)、そして両親ともに高血圧家族歴(OR=1.90、95%CI=1.38-2.62)であったが、男性では他の予測因子は飲酒(OR=1.45、95%CI=1.23-1.70)のみであった。結論として、BMIの中程度増加レベル(23.0-24.9kg/m<sup>2</sup>)の対象者でさえ、日本人集団ではプレ高血圧のリスクが増加し、プレ高血圧に関連するBMIレベルは欧州よりも低いことが分かった。そしてプレ高血圧の決定要因には、性差が認められた。           </p>	